

小 さ き 太 陽 「育ての心」 倉橋 惣三著 より

よろこびの人は、子どもらのための小さき太陽である。明るさを頒（わか）ち、温かみを伝え、生命を力づけ、成長を育てる。見よ、その傍らに立つ子どもらの顔の、熙々として輝き映ゆるを。なごやかなる生の幸福感を受け満ち溢れているを。

これに反し、不平不満の人ほど、子どもの傍らにあつて有毒なものはない。その心は必ずや額を陰しからめ、目をとげとげしからめ、言葉をあらあらしからめる。これほど子どものやわらかき性情を傷つけるものはない。

不徳自ら愧ず。短才自ら悲しむ。しかも今日直ちに如何ともし難い。ただ、愚かなる不満と、驕れる不幸とを捨てることは今日直ぐ心がけなければならない。然らずんば、子どもの傍らにあるべき最も本質的なものを欠くのである。

希（こいねが）わくは、子どもらのために小さき太陽たらんことを。

上記の文章は、私がこの職についてまだ若かった頃に、先輩から紹介してもらった本の中に書かれていた一部です。

教育者として、子供たちに日々接している私たち。幼稚園で過ごす子供たちにとって一番の人的環境である教師がいかに大きな影響力をもっているのかについて考えたことを思い出しました。

これは、教師だけでなく、子供たちの周りにいる大人にも言えることであり、保護者の皆さんにはとっては、家庭教育の大切さということで捉えても良いのではないかと思うのです。

幼稚園では、保護者の皆さんと連携してこれから育ちゆくお子さんの人間としての根っこの部分をしっかり育てていこうと思います。

園 長 石 川 久 子